

日本指圧専門学校同窓会

第2号

発行年月日 昭和58年3月31日
発行者 山内貞四郎
編集責任者 小林 秋朝
日本指圧専門学校同窓会
東京都文京区小石川2-15-6
〒112 TEL 03-813-7354
題字 山内貞四郎

会報



講演中の浪越徳治郎先生 2月11日

ご挨拶

同窓会々長

山内貞四郎



浪越校長先生の「喜寿を祝う会」開催の折は、同窓会諸先生方のご協力により、参会者一千名を越すという未曾有の大盛會に發展し、祝賀會が熱狂裡に終了いたしましたことは、主催者側の一員である同窓会といたしまして、大変面目を施したわけでありまして、ご協力いただいた会員諸先生方に対し厚く御礼申上げる次第であります。

さて同窓会本年度の事業といたしましては、名簿の整理、会報第二号発行、創立記念日祝賀會などでありますが、名簿の整理や会報発行などは、着々実行中でありますので、ここでは創立記念日祝賀會について一言その概要を述べたいと思います。すでにご案内申上げましたように、祝賀會は「講演と懇親の集い」という会名で、二月十一日の母校日本指圧専門学校創立記念日の日に盛大に

実行されました。ご出席の先生方は、ご招待の新旧教職員の先生方を含めて百七十三名でした。

講演は浪越校長先生と田村鉦二先生の二人にお願いたしました。浪越校長先生の講演は、学校創立当時の苦心談や思い出ばなしを語られて、聴衆をほろりとさせ、談、指圧道に及ぶや、診断即治療の奥義を説かれ、指圧療法の真髓を披露され、われわれの明日の臨床に大きな示唆を与えてくださいました。とくに指圧臨床の極意ともいふべき「真心のもう一おしが後をひき」という名句の講演に至っては、その意の深淵にして汲めども尽きぬ母心の情理が、ひしひしと感じとられて只々感激の外なく、まことに感銘深い講演でありました。

田村鉦二先生の講演は、肝臓の病理というテーマで、先生の永年に亘るご研究をお話くださいました。人体の最大の臓器に対する畏敬の念を一層深くすることができました。とくに肝臓とアルコールとの関係を詳細にお話いただき、われわれの今後の臨床活動に裨益するところ甚大なものがありました。両先生の講演内容は、会報第二号に掲載の予定で、会報担当の先生により計画中であります。当日欠席された先生方には、大きな福音になるのではないかと思っています。

本年度の最大の事業として実行いたしました今回の「講演と懇親の集い」は、大変なごやかで評判もよく、同窓会らしい雰囲気も随所に見られて、大変結構な会だったと思います。

指圧について

「身も心 耕やす技に意味あふれ 生きて行く道 光輝く」

日本指圧専門学校校長 浪越 徳治郎

本日は建国記念日、日本の誕生日であり、日本指圧専門学校の創立記念日です。この意義深い日にこうした会を企てた同窓会の方々に感謝し、全国各地から参会された皆さまに厚くお礼を申し上げますと共に、学校の今日の隆盛に尽力され、既に亡くなられた先生方に感謝の黙禱を捧げたいと存じます。(起立黙禱)

今日は建国記念日で、私共日本に生まれたことを何よりも感謝いたしております。やはり日本人である以上、日本の国を愛し、その国に育った自分を喜びに耐えませぬ。国に感謝するとともに、私は自分の両親に心から感謝いたしております。両親があつたればこそ浪越徳治郎はこの世に誕生して参りました。そう思いますと親の恩を忘れてはなりません。特に私は父親を非常に尊敬いたしております。生まれたのは四国の香川県で明治三十八年十一月三日です。父は代々傘屋を業といたしておったのですが、父親が今の中国に一万本の傘の輸出契約をいたしました。ところがその年はどういうことか雨降り続きで傘が乾燥できない。到頭納期限までに間に合わないで大きな失敗をして、土地も家財産もすっかり無くして倒産してしまつた。その時父は覚悟を決めた、四十才だったそうです。

自分は今もうこれでよろしい。五人の子供がいる。この五人の子供を立派に育てよう。これが自分の親としての責任である。

母親を説得して全然未知の未開拓の大自然の待つ北海道へ、つてを求めて移住して来た。大変なことですが、私は六才でした。ですから随分その苦労を知っているのです。北海道へ着いても僻地ですからお米がありません、稗とか粟とかそういうものしか食糧がない、母はどうしても米でないとノドに通らない、父親は一里半離れたところまで行って薪を百本挽くのです。百本挽いてそれを割って積んでそうして米を一升貰ってくる、そのために朝の三時まで暗いうちに家を出て、夕方暗くなると家に帰って行く。私は子供の時にその父を出迎えに行つたことを今でも思い出されます。大きな木がありまして、その木の側で父の帰りを一時間も二時間もじっと待っている。そうすると遠くから林のような黒い影が出てきて、だんだん大きくなって人影になって父が百メートルくらいまでくると飛んで走って父の体にすがりついて泣いた思いが今でも忘れられない……、そうして育てられました。

父が一生懸命身を粉にして私共を育てて下さいました、そのお蔭で私もこうして一人前になりました。私は東京へ出ま

て苦労している最中に、日記をつけても父を思い出すのです。その時作つた下手な詩ですが、

成功をあせるなかれと知りつつも
父を思えば心せかるる

お父さんの歳を勘定して、あの父を幸福者にして上げなければいけない。幸せにして上げなければいけない。これが私が寝ても醒めても忘れられない気持でした。どうやら一人前になって、当時木星号が大島三原山山腹にぶつかった飛行機事故のあつた翌日私は父と母を飛行機で――その村で初めて飛行機に乗った――切符を送って東京へ招いて花見をさせたことがあります。そんなこんなで父も母も日本一と云われる程幸福者になりました。私もできるだけの孝行を尽しました。

父は酒が好きで、酒を飲むと自慢をする。俺は金も地位も得なかつた。しかし子供を立派に育てた。一人もくずは育っていない。皆長のつくものばかりに育てあげた。

長男の茂一は村会議長になった。次男の政三は郵便局長になった。三男の徳治郎は指圧学校長になった。四男の春男は治療院長になった。長女の定子は婦人部長になった。皆長になったといつて大威張りだ。その父も九十七才まで長生きした。亡くなる前の晩まで一杯飲んで幸せな一生であつた。私は昭和十五年二月十一日に指圧学校を作つた。その年に、私が学校を開校すると云つたら、丁度七十才でしたが、母親が北海道からわざわざ来て、

「お前は東京で学校をやると云つても生徒が集まって来なかつたら寂しいだろう、私が生徒の第一号になつてやる。」
と云つて、母親が生徒の一号第一期生になつた。その時に母が、
「ここで出席をとる時だつてお前は皆の前で、お母さんと云っちゃいけないよ、他人扱いしておけよ」
だから浪越と云わないで母方の池田と呼ぶ。
池田まささん
「ハイ！」
と返事をする。そんなようにして母親は一年間一緒にやつて免状を貰つて、北海道に帰つたら今度は村の人に指圧をして上げた。
私はモグリではありませんよ、東京の大先生の免状を持つている」
大先生とは偉の私のことですが、そうやって母は八十八才まで長生きした。そういうことで私にとっては良き両親であると共に、また大変仲の良い夫婦で子供心にも二人で言い争う姿を一度も見ない事もない両親でした。この両親から、私は丈夫な身体を産んで頂いて、素直な心を植えて頂いて、これは何よりも感謝の心で一杯です。
ご承知のように日本で発達した指圧は今や世界中に広がり、第一回の指圧国際大会が新宿の京王プラザホテルで開催され、また昨年は欧州のローマとオランダで第二回の国際大会が行われ、今年は第三回大会がハワイで開催に決定し、ハワイでは愛泉指圧学校長因泥文彦さんが中心に第三回大会を成功させようと大変な情熱を燃やしておられます。

指圧の発展を考えるにつけて思い出されるのは恩師の方々のご協力ご功績ですが、やはり忘れてならぬのは人生創造の石丸梧平先生で、この方があつたればこそ私が東京に出ることが学校を創立することが出来

たのです。

人生に結論なし、ただ創造の一途あるのみ——と教えて下さった石丸先生は私の指に当時十万円という傷害保険をかけて下さった。これが朝日新聞に大きく掲載され、今日の指圧発展のきっかけとなったのであります。

私は三十年前に渡米した際、シカゴ総領事館で今の総領事大臣中曽根先生とお会いし、黒田総領事の夕食会に同席して二時間ばかりお話をする機会を得たが、その時私は「実践哲学・人生創造の石丸梧平先生」を紹介、中曽根先生はその門を叩き、爾来親交を重ねられたが、毎週一回指圧に行っている石原博司さんに「僕が総理大臣になって一番喜んでくれるのは石丸先生だろうなあ」と語られたそうです。

次に山口久吉先生——この方は元代議士で弁護士、医師の資格もある方で、戦時中の灯火管制に懐中電燈を持って通学、戦後は指圧が一番役に立つと指圧を勉強され、終戦・パージのあと都会議員に当選されたが、私共の会の最初の会長に、また指圧学校で講義もして頂きました。

加藤普佐次郎先生、この方は明治大学教授、医学博士でしたが酒々落々とした面白い方で指圧治療をしながら浪花節や義太夫をうたい患者の気持をほぐす。脳溢血には両手両足に各一名と、腹部を先生が治療するオーケストラ指圧を称えるなど、医者で指圧を大変ご理解して下さった立派な方でした。

諏訪間快亮先生は芝浦大学の教授でしたが、五十肩を治した指圧にゾッコン惚れこみ指圧を勉強して学校の教授陣に参加。
西尾恒敬先生も医師で、温厚篤実な方で

衛生学をこまかく教えて頂きました。

皆さまご存知の門間英雄先生は非常に実直な人柄で四十年にわたって指圧師養成に尽力、また先日亡くなられた吉田理平先生、この方も立派な方でした。

終戦直後第一期生の寺倉正三先生は元陸軍中将で北千島の最高指揮官だった方、よく講演をお願いしたが、その中で「真心のもう一とおしが後をひく」と述べられ、指圧師の心構えとして忘れ得ぬお言葉です。石丸先生から頂いた色紙に、

「身も心 耕やす技に意味あふれ 生きて行く道 光輝く」

というのがある。我々の指圧は圧すことが診断であり、その診断が治療に通じる。

強く圧す、弱く圧す、ゆっくり圧す、早く圧す、千変万化相手の状態に応じて治療をする。それが耕やす気持で行なわなければならぬ。圧しつづす、神経を麻痺さすというのではない。耕やす——丁度畑に種を蒔く時には、土地も耕やさなければならぬ。畑を耕やして初めて種を蒔き、肥料をやって成長する。お腹がゴロゴロの時そこへどんなに栄養を入れても全部吸収ができない、身につかないのです。栄養だけではいけない、その土地お腹を耕やさなければならぬ。これで初めて食べたものが栄養となる。だから身も心、心を耕やさなければならぬ。

お釈迦さんがある時托鉢に歩いていたら田を耕やしていたお百姓さんが文句を云った。

「お釈迦さん、お釈迦さん、あなたは只何にもしないでこうやって歩いている。私は朝から晩までこうやって耕やしている」と不平を云ったら

「イヤ自分も耕やしておる。私は人間の荒れた心の心田を耕やしているのだよ」という言葉を云ったというが……

やはり人間の身体には心と体がある。心を耕やす、体を耕やす。

「身も心 耕やす技に意味あふれ

肝臓の病理

日本指圧専門学校病理学講師
東邦大学医学部病理学教室

田村鉀二



生きて行く道 光輝く」
母心をこめて身も心も耕やす気持で治療に当る。これこそ指圧師の道であり、この精進こそが我々に課せられた使命だと考えます。

〔講演と懇親の集い〕講演談

に並べ、(三)では代表的な肝臓の疾患である肝炎、肝硬変、肝癌について、おわりに(四)近年はたらき盛りの人々に増加しているアルコール性肝疾患について述べます。使用スライドは百四十枚、左スライドは肉眼像、右スライドはその組織像としました。

講演要旨

(一)、正常の肝臓

肝臓は人体で最大の臓器で、日本人成人で重量約千三百グラム、腹腔内静脈血の殆んどが門脈を経て肝臓に送り込まれます。肝臓の主な生理作用は代謝と分泌です。

ここでは合成、分解、貯蔵、解毒などの代謝の働きのほか胆汁の分泌を行います。

肝臓を構成する単位を肝小葉といい直径約一・五ミリの多角柱です。肝細胞はここに索状に配列し、周囲は数々のグリッソン鞘で囲まれています。

肝臓は又一般に沈黙の臓器、余裕の臓器ともいわれます。肝臓は自ら痛みを訴えることはありませんし又余裕をもって働いているので、その一部が傷害されてもある程度までは残りの部分がその働きを補うことが可能です。したがって自覚・他覚症状や血液一般検査で肝臓の異常が見つかったと

過日、二月十一日は日本指圧専門学校第四十四回目の創立記念日でした。当日は上野のタカラホテルで「講演と懇親の集い」がありました。私も出席致しましたが、十余年前のなつかしい顔ぶれにもお会いして、とても楽しいひとときを過ごさせていただきました。以下は午前部の私が行いました講演の要約ですが、我ながら話下手にはあきれております。

演題は「肝臓の病理」です。まず(一)、肝臓の正常の構造と機能について簡単に述べ、次いで(二)、いろいろな肝臓の病気を総論的に

きには、そうとうに病変が進行していることが多く、それ故に手遅れになることもしばしばです。

又肝臓はその病変が多彩であることも特徴の一つです。

(二)、いろいろな肝臓の病氣

肝臓はその位置及び血流動態から大へん多くの種類の病変がみられるところです。ここでは肝臓にみられるいろいろの病氣を総論的に列挙してみます。

位置異常や奇型の他、まづ退行性変化としては老人肝、飢餓、悪液質の際みられる褐色萎縮があります。中毒、代謝性疾患にみられる変性、壊死像として脂肪肝、ヘモクロマトーシス、ウイルソン病の肝、アルコール性肝傷害、薬剤性肝傷害や子癩の肝などがあり、循環障害性病変はうっ血肝、にくずく肝、ショック肝としてみられ、炎症、感染症では各種のウイルス性肝炎、細菌性の肝膿瘍、胆管炎など、結核菌の血行性蔓延による肝粟粒結核、スピロヘータでは梅毒のゴム腫、アメーバ赤痢、ワイル病が、又放線菌症、のう包虫症のほか日本住血吸虫などの寄生中による疾患もみられます。多くの肝疾患の終末像とも言える肝硬変症も大切な病変です。肝に発生する癌腫としては、肝硬変に続発する肝細胞癌と肝内胆管上皮に由来する胆管癌とがあります。又肝臓は近接臓器から連続性に又血行性、リンパ行性に癌の転移の起りやすい臓器です。

(三)、肝炎、肝硬変、肝臓

前項で述べたいろいろの肝疾患のうち代表的な肝炎、肝硬変、肝臓について少し述べます。というのは肝炎のうちあるものは肝硬変に移行し、肝硬変の何割かは肝細胞

癌を続発するというようにこの三つの病変はいろいろの面で深い関連がみられるからです。

イ、肝炎

ウイルス性肝炎には流行性肝炎といわれるA型肝炎と予後不良の血清肝炎といわれるB型肝炎とが知られていましたが、今ではむしろ非A非B型肝炎が多いと云われます。しかしこれらを組織学的に鑑別することは困難です。今までは肝炎の原因がはっきりしませんでした。オーストラリア抗原の発見を機にB型肝炎ウイルスが、ついでA型肝炎ウイルスが発見されて予防や治療の面でも急速な進歩がみられています。すべての肝炎ウイルスに対するワクチンが出来るのに十五年はかかるといわれ、又このウイルス性肝炎に関連するすべての肝疾患、即ち肝炎、肝硬変、肝臓を絶滅するには更に百年を要するといわれます。肝炎の各型を病理組織学的にみてみますと、

急性肝炎

肉眼的に肝は一般に萎縮し表面は皺状になっていきます。組織学的に肝細胞壊死は小範囲で多発性、特徴的な像は肝細胞の水腫性膨化即ち風船細胞と肝細胞壊死にもとづく好酸体の出現です。このうち激症型といわれるものでは肝全体に及ぶ広範な肝細胞壊死が一時に起ります。これは肝炎ウイルスに起因することは勿論ですが数日から十数日で死亡するという激症の経過をとるのは生体側の反応も大いに関係しているものと考えられます。又遷延性急性肝炎では肝細胞の再生とグリソン鞘周囲からの線維の増生がみられます。

慢性肝炎

肝は肉眼的にはほぼ正常の大きさで硬度

は増し表面は軽度の凹凸不正がみられます。組織学的にはグリソン鞘にリンパ球浸潤と線維の増生がみられ、このグリソン鞘の拡大と限界板の破壊が特徴です。

この慢性肝炎は活動型と非活動型に分けられますが活動型肝炎は肝硬変症へ移行する可能性の高い型ですので注意しなければなりません。

ロ、肝硬変症

肝硬変とは肝全体に及ぶ病変で偽小葉の形成と線維性の隔壁形成が認められるものをいいその型はいろいろあります。

肝硬変症の大部分を占めるのが続発性肝硬変症で、これには種々の原因が考えられますが、大きく二つに分けられます。一つは門脈性肝硬変症(日本では乙型)で結節はほぼ同大で小さく、もう一つは壊死後性肝硬変症(日本での甲型にあたるもの)で結節は大小不揃いです。この二つの型以外を特殊型肝硬変症といい、原因のはっきりしているもので、これには右心不全によるうっ血性肝硬変症、胆汁うっ滞による胆汁性肝硬変症、アルコール性肝傷害によるアルコール性(又は脂肪性)肝硬変症、血色素症(ヘモクロマトーシス)による色素性肝硬変症、日本住血吸虫による寄生虫性肝硬変症などのほかウイルソン病の肝硬変症、バンチ症候群の肝硬変症などがあります。

これらの肝硬変症はいろいろの肝疾患の終末像ともいえるもので結合線維の増殖によって一たん硬くなった肝臓は、もう元通りの血液に富む柔かな肝臓にもどることは出来ません。この肝硬変症の三大死因は食道静脈瘤破裂による吐血、肝不全による肝性昏睡、そして肝細胞癌の続発によるものです。

ハ、肝臓

肝臓原発の癌腫には肝細胞癌、胆内胆管癌、肝芽腫があります。このうち肝細胞癌は肝硬変症の約三分の一以上に続発するといわれます。肉眼的に塊状型、結節型、びまん型に分けられ、組織学的に肝細胞によく似た腫瘍細胞がみられます。腫瘍は柔かく出血、壊死をおこし易く、又胆汁色を呈したり多彩な色調を呈します。

症状も初期には肝臓に特有なものではなく、右季肋部鈍痛、黄疸、腹水、腫瘍触知などは病変がある程度進行してからのものです。α-フェトプロテイン高値は一つの目安にはなりません。予後は非常に悪いものです。

(四)、アルコール性肝障害

戦後アルコール摂取の増量と共に急増の傾向にあるアルコール性肝障害について簡単に述べてみます。組織学的にこの肝障害はアルコール性脂肪肝、アルコール性肝炎、アルコール性肝硬変の三つの病変が考えられます。

アルコール性脂肪肝

一般に肝は腫大して柔かく、被膜は緊張します。圧痛があります。組織学的に肝は、びまん性の大滴性脂肪変性の像がみられます。この肝の病変は長期にわたるアルコールの多飲だけでなく、栄養障害性の因子も関与するものといわれます。

アルコール性肝炎

長期にわたるアルコール多飲者が、多量のアルコールを一時に乱飲した場合にみられるもので、組織学的に多核白血球浸潤を伴う肝細胞の帯状壊死と、水腫性に膨化した肝細胞内にアルコール硝子体をみるのが特徴的です。この病変が遷延するとグリソン鞘間に線維性結合織の隔壁を形成しながら

ら中心静脈域の壊死部への線維の進展が進み、遂には小結節性の**アルコール性肝硬変**症が成立します。

このアルコール性肝障害も主訴は不定、多彩で、全身倦怠感、易疲労感、脱力感のほか、食思不振、浮腫、悪心、嘔気などが主訴となることが多いようです。

アルコール性肝硬変症が現在の五十才前後の年齢層に多く、酒歴も二十年から三十年の人達に多くみられることは、戦後のアルコール消費量の急増と考えせると大へん興味深いことと思われれます。この種の肝障害では血清学的検査のうちでも γ -GTPの上昇が特徴的です。

以上アルコール性肝障害についての結びとして、日本人成人の肝でのアルコール代謝の能力からみて一日のアルコール飲量は八〇グラム以下が妥当で、これはウイスキーならダブル三杯、日本酒三合、ビール三本に相当しますが、ただこの飲酒も連日に行わねばならず、日頃から高蛋白質を心掛け、脂肪はむしろ制限する方が良くと思われれます。

アルコール性肝障害は前に述べた通り主訴に乏しいので、いつもお酒を飲んでいる方は γ -GTPで肝障害の程度をさぐり、さらに肝生検による早期の病理診断と禁酒、高蛋白質を主とする早期の治療によって、この病変の終末像であるアルコール性肝硬変症への進展をくい止めなければなりません。

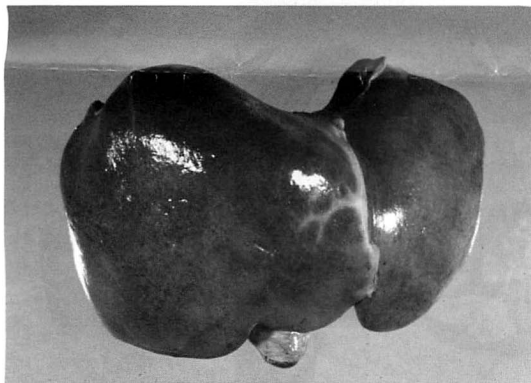
と、まあ型の如くに講演を終わりましたが物事にはすべて本音と建前があります。人には個人差があります。人それぞれの酒量を心得て、あとはきちんとオーバードーズしておけばいいのです。それには指圧がい

ちばんです。校長先生を御覧いただければナットクされると思います。適量の飲酒は食欲を増進し、人間関係を円滑にし、明日

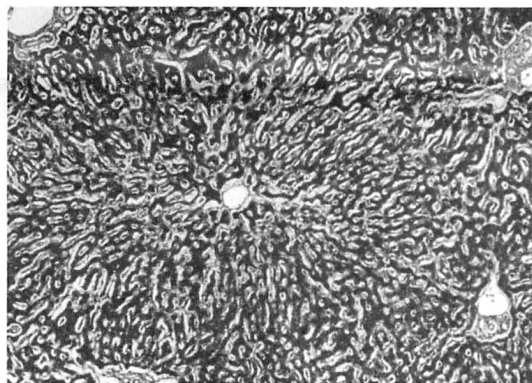
への活力を養います。日頃から快食、快眠、快便に心掛ければ酒は百薬の長であります。

………という事で午後の懇親の集いは、大いに飲みかつ食って楽しい同窓会の日を過ぎたのであります。

正常肝

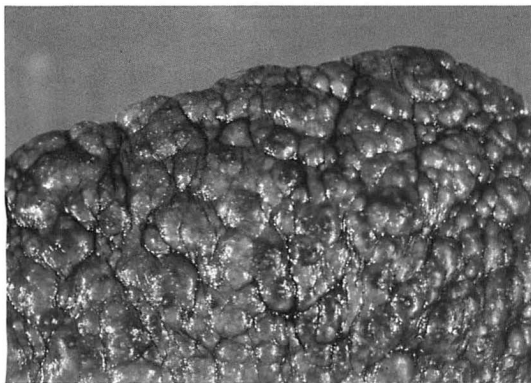


(正常肝)

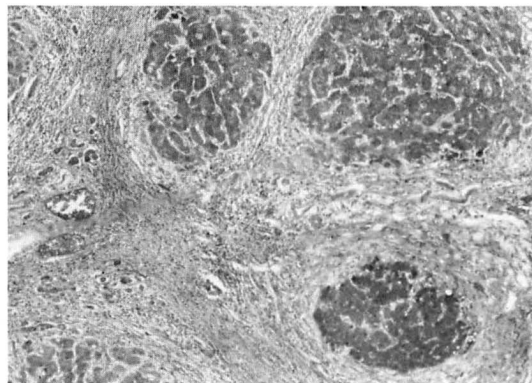


(正常組織像)

肝硬変

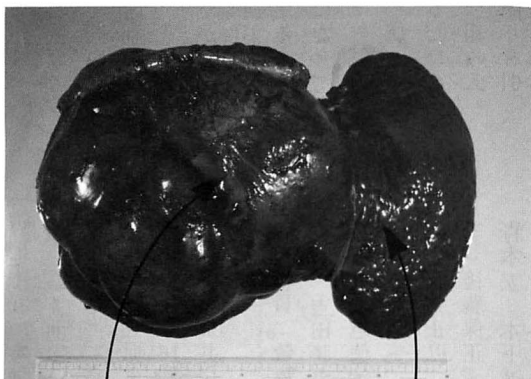


(肝硬変)



(肝硬変組織像)

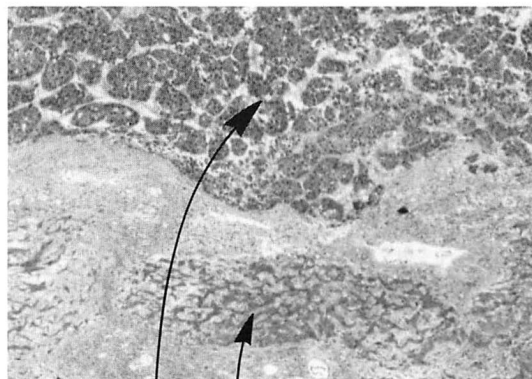
肝硬変 + 肝癌



(肝硬変+肝癌)

肝癌の部

肝硬変の部



(肝硬変+肝癌組織像)

肝硬変の部

肝癌の部

窓

「講演と懇親の集い」

開催概要

日本指圧専門学校同窓会は建国記念の日の二月十一日午前十時から東京・台東区のタカラホテルにおいて講演と懇親の集いを開催。百七三名が出席、盛況を極めた。

第一部、講演の部は同ホテル三階のエクセレントの間で午前十時三十分、司会の片岡弘昌氏(21期)の開会の辞に始まり、会長山内貞四郎先生の挨拶(割愛)、役員紹介(省略)があつて講演に移り、日本指圧専門学校長浪越徳治郎先生は「指圧について」、東邦大学医学部田村鉦二先生はスライドをまじえて「肝臓の病理」についての有意義な講演が午後零時半まで披露された。

第二部・懇親の集いは会場を四階の「宝仙閣」に移し四川料理のフルコースで行われた。ご招待の現・旧教職員先生、その他は各期別に十八の円卓に分かれて着席、久しぶりの懐かしい同期生の顔合せである。司会は代つて岡本優氏(7期)丸井孝男(9期)開会の辞を副会長石垣惟一先生、祝辞を同窓会名誉会長浪越徳治郎先生が述べられ、山内会長から出席の現・旧教職員の紹介があり、徹先生の乾盃音頭で懇親宴に入り、各テーブルは歓談の花が咲き、同窓会の横のつながりはまた格別の親愛感が湧き上る。肩をたたき握手する姿があららこちらのテーブルに見られた。

来賓祝辞として協会副会長長川上春治先生

の挨拶があつて余興に移り、浪越校長お得意の「日本海々戦」によって演芸の火蓋が切つておろされた。最後に校歌「指圧讃歌」の合唱、万歳三唱のあと、副会長吉田克廣先生の閉会の辞があつて午後二時半過ぎ盛況裡に閉会した。(編集室)



窓

●経過報告

簡単な事務処理を

守ろう

会員名簿作製委員長

(十七期生)上野欣二

日本指圧専門学校同窓会「講演と懇親の集い」は二月十一日台東区上野のタカラホテルで開かれた。同窓会の会合がホテルで

開かれたのは異例なことだと思つている。ホテルならばゆったりと落ちついた気分での研究会と懇親会が、会場移動だけで同時にできるからだ。会食メニューも着席制のフルコースが準備された。

ホテルを会場に選ぶことは最適だが、問題は費用がかさむこと。会費も七千円を限度として、出来るだけ内容を充実することが努力された。設営・準備の中心になって努力された小林秋朝先生(十七期)の気迫あるホテル接衝には同席した私達もびっくりするほどだった。打合せを重ねるたびごとに同窓会側の希望条件が一つ一つ組み入れられていった。それに心よく諸係りを引き受けて下さった会員皆さんの御協力も心から嬉しく仕事のやりがいを感じた。

私も会場設営準備の一員だったが、会員名簿の作製にタッチした関係もあつて、集会の案内通知、来会者のリスト作製に関係した。出席者の正確な把握とキャンセルをどれだけ防ぐかは脳の種だった。一人々々の会員にとっては何でもない簡単な事務的処理が、それが守られないことによつて会全体がいかに有形無形の影響を被むることか。以下会員と会との繋り具合のバロメーターになる案内通知の回収報告とあわせて二、三の感想を記述して見た。

○申込みがき回収状況

通知総発送数 三六六〇通

(住所確認できている全会員)

不着 八六通

(住所移転、連絡ないもの)

欠席回答 一一一一通

出席回答 一八三通

(出席回答後、取消者四名を除く)

遠隔地よりの参加者

▽山形県 前田英明(2期) 小松哲太郎(3期) 富山県 押川正秀(19期)

▽愛知県 岡田辰次郎(11期)

藤井宣政(16期) 小林千一(24期)

▽長野県 井尾栄(22期) 上嶋正人(24期)

(24期)

出席教職員(敬称略) 旧教員 吉田

克廣、吉田勝平、小出忠志 現職

教員 浪越徳治郎、浪越徹、石垣惟

一、佐々昭三、田村鉦二、山内貞四

郎、藤井正弘、鈴木林三、浪越満都

子、後藤保正、小林秋朝、上野欣二

青木宏、木下誠、片山道子、出口和

雄、松尾政次、柳本昭人、山田明信

藤田一彦 事務職員 浪越和民、堀

武治郎、佐藤八郎、藤田和子

協賛・祝金(当日出席できぬため協

賛・祝金を送られた方) 辻巖(5期・

香川県) 稲場義明(16期・富山県)

申込制の会合におけるキャンセルは約一割というのが常識とされているが、今回も申込内金を納入しながら当日突然欠席された方があつた。連絡がなければ注文数に入れるのは当然だが、これらのキャンセル数をどう予想するか。それに申込なしで当日出席された方もあり、配膳数の最終調整は宴会場入場の十分前まで秒刻みのせわしい思いで調整がはかられたのが宴会開会前の舞台裏であつた。また出席回答でも内金払込予定日が書かれていないものも相当数あり、正確な出席数を知るために出欠の電話確認もさせていただいた。なお内金納入後中止連絡をいただいた方には申し込み金

身長を伸ばす指圧法



日本指圧専門学校副校長

浪越 徹

身長があまり伸びない子供に対しては10才から16才頃の成長する期間に指圧を根気よく続けることによって著しい効果をあげることが出来る。特に骨格筋を柔軟にほぐし、こわばりをとって関節の動きを正常化しなければならぬ。特に脊柱起立筋に対しては左右がアンバランスにならないように筋群を平等にほぐすことである。そして全身の形態に気をつけて見る。頭が傾いていないか(筋性斜頸、頸椎の異常)どちらかの肩が下がっていないか(左右の脊柱起立筋のアンバランスによる側弯症)、左右の腸骨稜にゆがみがないか(仙腸関節のずれ)、股関節(股関節脱臼または亜脱臼)、膝関節、O脚(内反膝)、X脚(外反膝)、足関節(内反足・外反足・尖足・鉤足)その他、大殿筋、大腿筋膜張筋、腸脛靭帯、大腿四頭筋、大腿二頭筋、腓腹筋、ヒラメ筋、アキレス腱、前脛骨筋、腓腹筋、足底筋などを入念にしらべる必要がある。扁平足に対しては片方の母指で土ふまずをおしながら片方の手で足指をつかみながらゆっくりと底屈と背屈を行う。これを根気よく続けると足底の矯正ができる。これらを入念にしらべる必要がある。また、内分泌腺のはたらきを活性化することが大切である。脳下垂体から

は成長ホルモンが分泌され、ほかの内分泌腺とも関連し、これに通じる延髄部は重要なポイントとなる。

甲状腺からは、新陳代謝をうながすホルモンが分泌される、このホルモンのはたらきがぶると動作にもぶくなる。特に前頸部の3・4点目の指圧に重点をおく。

副腎からは多種のホルモンが分泌され、からだの各部分のバランスをはかるホルモン腺で特にストレスに敏感に反応しホルモンのバランスをくずれやすくするのでここも指圧の重要な部位である。ここがかたくなっているときは、あまり母指で強圧しないで、初めは母指球でじんわりと持続圧をくりかえすのがよい。

腹部指圧によって内臓のはたらきを正常化し消化力をつけさせることである。内臓のはたらきが弱っていると消化力がにぶるので、どうしても食物のとりかたが片寄った傾向になりやすい。無理に喰べさせても不消化になるので消化力をうながすようにすれば自然に自分から欲しくなり食物のバランスがとれるようになる。

以上、骨格筋、ホルモン腺、内臓が、身長を伸ばすポイントである。そこで頸部、背部、下肢、腹部、などを入念に全身指圧

がおわったあとで重複してもよいから下肢の伸展法(ストレッチング)坐位で両手首を持って上体の伸展法、これは特に脊柱起立筋を伸展する。これによって脊椎骨の亜脱臼によるずれやゆがみがとれる。この脊椎骨の亜脱臼は、姿勢の不良なども原因するが、左右の脊柱起立筋のアンバランスによる筋の硬結によるものである。この硬結の左右の片寄りが長びくと身長が伸びない原因の一つでもある。

以上の指圧法によって成長期における脊柱側弯症の予防ともなり、成長期の子供への指圧はスキミングとなり非行防止にもなると信じる。是非、成長期の子供には指圧が必要といえる。全身の指圧にはあまり時間をかけずにポイントにしぼり、30分位がよい。これを毎日、続け、特に就寝前の指圧が効果的である。

老人医療と指圧

埼玉飯能病院長

渡辺治基



日本指圧専門学校の皆様と、私ども埼玉飯能病院がおつき合いをお願いして、から、満五年を迎えようとしております。

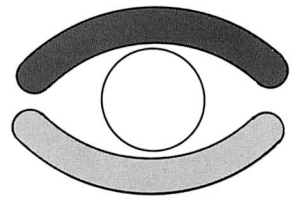
この間、毎月一回、実習のため、日本指圧専門学校の在校生の皆様が、交代で来院され、お年寄りの患者さんに真剣な、そしてやさしいまなざしで接しながら、指圧の奉仕に半日を過ごし、又、夏休には夏期研修に、泊りがけで飯能までお越しになるなど、私ども病院関係者としては大変有難く、いつも心から感謝申し上げております。

『指圧の心、母心』と申される通り、お年寄りの患者さんには、手のそして心のふれ合いが、最も暖かく、しかも力づけられ、何よりのプレゼントでございます。

埼玉飯能病院には、百四十名のお年寄りの患者さん。その病名は脳卒中後麻痺、高血圧、脳動脈硬化症、関節リウマチ、心臓病、骨折、腰痛、老年痴呆とさまざまでありますが、寝たきりの方も多く、沢山の過去を秘めながら療養にいそむ姿は、高齢化社会のまさしく縮図でございます。

私どもは不自由なお年寄りが、少しでもご自分で動き、食事を摂り笑顔を見せ、介護なしに生活できるよう治療に当たっております。謂わば、攻めの医療と申しましょうか、ご不自由なお年寄りも、動かし歩かせ、リハビリテーションをすることにより、明るさが増大いたします。中でも指圧は末梢神経を賦活し、全身の循環を促がし、運動機能を向上させ、お年寄りには最適の療法でございます。

最近、ぼけ老人の問題が大きく取沙汰されておりますが、指圧が非常に効果があるように思われ、大いに期待しております。老人保健法の施行と共に、健康で明るい老後が叫ばれるようになりましたが、これからの老人医療に於ける指圧療法の価値は絶大であると信じ、大きく高く評価しております。



視点

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律、同法律施行令、施行規則等の一部改正について

日本指圧専門学校副校長

石垣惟一



昭和五十七年七月二三日付、右法の一部改正があり、これに伴い、九月十四、十八日に政令、省令の一部改正が行われ、一部を除き、九月二三日に施行された。

改正の要点

1 免許に関しては住所地の知事が全面的に管理していたことが廃止され、免許を与えた知事の管理下に登録されたことである。

即ち、住所の変更等の住所地の知事への届出は必要ない。

2 業務については、業務を実施する知事に管理されることになった。

なお、施術所の開設届中、施術者の氏名に「晴盲の別」が加わった。

法律

第三条の二、三を次のように改める

第三条の二(免許証の交付)

都道府県知事は免許を与えたときは、それぞれ、あん摩マッサージ指圧師免許証、はり師免許証又ははり師免許証(以下免許証という)を交付しなければならない。

第三条の三(名簿の登録)

都道府県知事は、あん摩マッサージ指圧師名簿、はり師名簿、きゅう師名簿を備え、それぞれ、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師(以下施術者という)の免許に関する事項を登録する。

第十一条中(政令への委任) 略

政令

第二条(名簿の登録事項)

あん摩マッサージ指圧師名簿、はり師名簿又はきゅう師名簿(以下名簿という)には次に掲げる事項を登録する。

1 免許証の番号及び免許年月日

2 本籍地都道府県名、氏名、生年月日及び性別

3 あん摩マッサージ指圧師試験、はり師試験又はきゅう師試験合格の年月日、試験施行地都道府県名

4 免許の取消し、又は業務の停止の処分に関する事項

5 前項に掲げるもののほか、厚生大臣の定める事項

第三条(名簿の訂正)

あん摩マッサージ指圧師、はり師又はきゅう師(以下施術者という)は前二条の登録事項に変更を生じたときは、三十日以内に名簿の訂正を申請しなければならない。

2 前項の申請をするには、申請書に申請の原因たる事実を証する書類を添え、これを免許を与えた知事に提出しなければならない。

第四条(登録の削除)
死亡、失そのの宣告をうけた場合、三十日以内に、届出義務者は登録の削除を申請しなければならない。その場合、申請書に免許証を添付し免許を与えた知事に提出しなければならない。

第七条(免許証の書換え交付)
免許証の記載事項に変更を生じたときは、免許を与えた知事に、免許証の書換え交付を申請することができる。

第八条(免許証の再交付)
施術者は免許証を破り、汚し又は失ったときは、免許を与えた知事に免許証の再交付を申請することができる。

2 免許証を破り又は汚した施術者が前項の申請をする場合には、申請書に免許証を添えなければならない。

3 施術者が免許証の再交付を受けた後、失った免許証を発見したときは、五日以内にこれを免許を与えた都道府県知事に返納しなければならない。

第九条(免許証の返納)
施術者は免許を取消されたときは、五日以内に、その免許を取消した知事に免許証を返納しなければならない。

第十条(行政処分に関する通知)
都道府県知事は他の都道府県知事の免許を受けた施術者について、免許の取消し、又は業務の停止処分をしたときは、その施術者の免許を与えた知事に、その処分の年月日、処分の理由及び内容を通知しなければならない。

省令(規則)

第四条(名簿の訂正の申請の手続)
令第三条第二項の名簿の訂正の申請書には戸籍の謄本又は抄本を添えなければならない。

第五条(免許の取消しの申請)
免許の取消しを申請するには、申請書に免許証を添え、これを免許を与えた都道府県知事に提出しなければならない。

第二十四条中第六号

業務に従事する施術者の氏名及び晴盲の部が改正です。

なおこの「法規」は運転免許の「道路交通法」と同様、常時記憶を新たにし、改正があればその要旨を把握することが必要である。私共の仕事は人の体が対象であり、而も半健康体に施術するので間違いがあつてはならないと共にこの「法規」を忠実に実施することが自分を守ってくれることを心に銘記して再度熟読してほしい。

同好会発足のお知らせ
学芸や、趣味、特技をお持ちの方同好会を創って如何に相談・世話役 編集室へ

YoKOGA

Letter from Tokushima



徳島大学歯学部
解剖学助教
元日本指圧専門
学校解剖学講師

石塚 寛

「先生とは生徒より若いものなり」。あれはもう十数年も前のことになりました。指圧学校の旅行の懇親会で当時はやっていた「ものはげ」の余興に出た私の答に生徒さん達はやんやと拍手をして呉れました。当時の生徒さんは勿論若い方もいらっしゃいましたが、熟年の方が多く二十才そこそここの私などは所謂「Pupils pet」でありました。私が一生懸命講義をしても生徒さんはまるで感覚性言語障害にか、った様に狐につままれた状態でした。こう云う時にうまくしたもので私の講義内容の概要を「つまり先生はこう云う風に云われているのです」とまとめて下さる生徒さんいらっしゃって大変助かったものでした。

日一日と進歩の時代の波がおしよせ指圧学校にも若い先生達のpowerが必要になって、沢山の第一線の研究者が基礎医学の学科を担いました。もう一番若い先生だなんていつていられなくなり、私自身も私よりずっと若い、教育熱心な先生を捜して来なければならなくなりました。もうこうなつては「つまり先生はこう云っておられるのですな」などの場合ではなくなり私もそれなりに指圧学校に向けた講義内容を盛ったノートを作ったり、指圧に関連した各種論文を集めたりせねばなりませんでした。

そんな時に縁あって「概説解剖学」が出来上りました。しかしこの本は指圧学校での私の講義内容を充分に尽すことが出来ず、今度やつと改訂の運びになりました。ほんの思いつきですが書名も「漫談解剖学」にでもしようと思っっています。

指の光によりますと母心運動が盛んに行なわれている由でこんな結構な事はありません。14期生達と水郷へ指圧の奉仕に行つたのも良い思い出です。また18期、19期の学生達とも湘南だ、水郷だと老人ホーム通いをしたのもつい此の間の様な気がします。指圧学校のボランティア活動も年が入って本格的なものになった様です。

運動会を始めたのも14期からだつたでしょう。胸のときめきを感じ、非常に楽しい一時を送らせて頂いたものです。毎年一つのテーマのもとに全校心を合せてもり上げて行くのも他の学校には見られない伝統だと思います。

支部会の合同研究会も盛んに行なわれている様子ですが、私も在京中は江東区に住んでいた関係上、中央・隅田・江東の合同支部会に出席させて頂き「東洋医学と西洋医学の接点」などと麗々しい題名をか、けて今思い出すと汗顔の至りですが何回かのシリーズで話させて頂きました。研究会と云えば指圧の効果を探ろうと9期の川村、上田、勝尾、基さんたちと指圧の術前、術中、術後の脈拍、呼吸数、体温、血圧などの測定をしたりしましたが、画期的な研究に発展せずに終わってしまったのは一重に私の責任と感じております。

また9期の方々とは2部で指圧の実技を先日おなくなりなられた吉田理平先生にお習いして、それまでは指圧は施術されるものとの考えを施術してあげるものと考えを新たにしましたものでした。指圧の実技を習った事によって解剖の講義も筋、血管・神経と指圧点の関係をいつも頭においてする様になり、私の解剖学観にとっても可成りの影響がありました。吉田理平先生は浪越指圧を正確に伝える事に心掛けた方で「いつも校長先生がおっしゃられるには」と口ぐせの様におっしゃっておられました。本当に大切な方でしたのに残念でなりません。

校長先生とも6期、7期の頃は奥様の心づくしの夕食を頂き乍ら指圧と解剖との関係と云つたお話は良くいたしました。校長先生は頸が非常に大事だといつもおっしゃっておられ一緒に解剖をしたとおっしゃっておられました。段々御多忙になられ未だに実現出来ず残念です。私も校長先生の御話には同感で人間はいつも重い頭部を細い頸の上に乗せて生活しているのですから、しかも頭部と体幹を結ぶパイプライン（血管、神経、消化器、呼吸器等々）が通る所ですから正しい状態をいつも保たねばなりません。これを保つのはパイプラインの柱にあたる骨と筋肉と云う事になります。指圧と解剖学との関係は私なりに考えて第一回国際大会の時、中間報告的に発表させて頂きました。

徳島へ参りましてからも何か指圧に関する研究なり、ボランティア活動を続けたいと思っており、また何人か卒業生が県内、市内におられるとの事ですが一緒に何か出来ればと思っっています。しかしまだに接触出来ません。京都に移られた18期の高橋昌典さんはお一人で老人ホームで指圧の奉仕をお続けになられていらっしゃる由で私は何もしていない自分を唯恥かしく思っっています。

指圧も今や世界の *Shiatsu* です。研究も指圧生化学、指圧生理学などの観点から改めて行かねばならないと思っいます。幸いその方面では神奈川歯科大学生化学の中山教授に協力して頂いているとの事ですが、指圧解剖学、指圧組織学さらに指圧細胞学と云つた面でも指圧学校のスタッフ又は旧スタッフには解剖学者が多いのでこの面の研究も進めばよいと思っっています。例えば「指圧による鎮痛効果の解析」なども指圧によるエンドルフィンなどの分泌亢進現象は組織化学的にも解析出来るかも知れません。ナロキサンなどによるエンドルフィン効果のプロックで鎮痛効果がなくなるかどうかを研究すれば指圧の効果の引き金は何なのかと云う事も判つて来ると思っいます。更に「振動掌圧による蠕動運動の亢進」とか「浪越圧点を押すと何故刺激が足の先まで走るのか」など次から次へとやらねばならない事は走馬灯の様

に私の頭をかすめますが、一つの事が判るのには可成りの日数を必要とするでしょう。今後同窓会各位が診療 *Data* をつみ上げて更に治療の実を上げられます様南国徳島よりお祈りしています。

PS、「指圧連」を作つて校長先生を連長に仰いで徳島で阿波踊りをしませんか！

医学 四方山話

肝臓ガンは予防できる

原因の8割はB型肝炎ウイルス WHO ワクチン、血清投与で

世界保健機構(WHO)は二月十一日、最近ジュネーブで開かれたWHOの肝臓ガン予防国際専門家会議が「ワクチン投与によってかなりの肝臓ガンを予防できる」との結論に達したと発表した。

同専門家会議は日本の西岡久寿弥・都立臨床医学総合研究所副所長を含む十六カ国の専門家で構成され、一九七六年以来、肝炎と肝臓ガンの国際協力研究を病理学、疫学、分子生物学など各分野から続けてきた。このような研究を積み重ねた今回の会議で、肝臓ガンの約八〇%がB型肝炎ウイルスが原因であるとの結論になった。世界各地での疫学研究から、肝炎と肝臓ガンの密接な関係が確かめられたこともその根拠の一つ。

分子生物学の研究により肝炎から肝臓ガンへ移行する段階で、B型肝炎ウイルスのデオキシリボ核酸(DNA)が肝臓細胞の染色体に入り込み、肝臓ガンの原因となることが確かめられた。

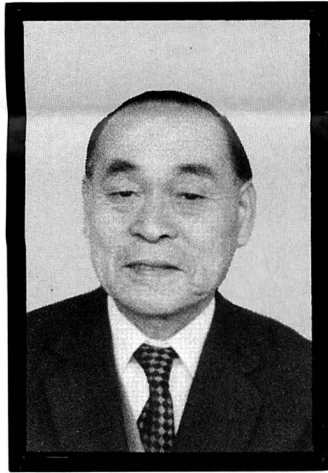
B型肝炎ウイルスが原因となる約八〇%の肝臓ガンを予防するには、肝炎の発生を予防するとともに、肝炎になったら完全に治し、慢性化を防止すればよい。肝炎予防には二つの方法が有効であることが確認さ

れている。一つは既に市販されているB型肝炎ワクチンの投与で、特に生後六カ月の間に投与するのが有効。これはワクチンによるガン予防である。

もう一つは、B型肝炎ウイルス保有者からとった免疫血清を健康な子供や大人に与えてB型肝炎ウイルスに抵抗力のある体を作る方法で、これは西岡博士らが世界で最も進んだ研究を行っている。WHOはこの二つの方法を世界に普及させ、特に発展途上国に多い肝臓ガンの予防運動を進める方針だ。

吉田理平先生を 偲んで

同窓会副会長 (八期生) 藤井正弘



一月二十三日早朝、吉田理平先生の訃報に接し、只ぼうぜんとした私は、、、、、一月二十六日午後一時より鳩ヶ谷の自宅で、行なわれる先生の告別式に友人四人と参列致しました。この日は春を感じさせる様な、暖かい日で弔問客も後を絶たず先生の生前の人柄がしのばれました。私も焼

香を濟ませ合掌をしながら、先生との過ぎ去った日々の色々の事が思い出されました。最初に先生にお目にかかったのは、私が学校に入学した昭和三十九年、この年は日本が高度成長の真最中、東京オリンピック、北海道新幹線開通の年でした。先生は指圧実技を二年間に亘り担当され、浪越指圧の真隨(基本)を徹底的に教えて下さいました。こんな日も多々ありました。先生が生徒に質問を受けその解答が不明瞭の場合は必ず「校長先生にお伺いをたててから解答致します」とこの様に申されました。

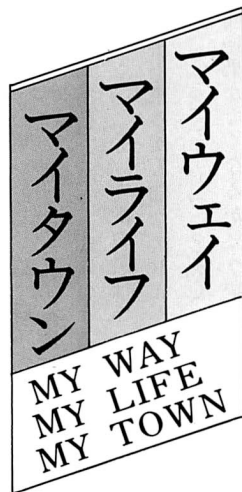
そして私は国試にも合格、無事卒業してから幾年か過ぎたある日突然、私は校長先生からの依頼で母校の実技の理平先生の助手としてお世話になる事になったのです。縁は奇なもの良く云われます。私は在学中二年間尊敬してた先生の助手になれるという事で期待と感動で胸が一杯でした。始めての期は第十六期のB組(この期は午前A組、午後B組、夜間C組)の三クラスでした。から助手を務めさせて頂き、尚一層先生の、誠実さ、律義さ、謙遜さに感動しました。そして只今現在、私は先生の御意志を信条とし後進の指導に邁進致して居ります。先生どうか我々後進を見守って下さい。最後に先生の御冥福をお祈り致します。

昭和五十八年二月十六日記す
参考迄に当時の教科担当の先生を列記させて頂きました。

- 指圧理論 校長先生
- 英語 徹先生
- 解剖 石塚先生
- 生理漢方概論 井沢先生
- 病理 定裕先生(一年)

吉田(克)先生(二年)

- 社 会 諏訪間先生
- 衛生 西尾先生(一部)
- 石垣先生(二部)
- 症候概論 佐々先生
- 医学用語 坪内先生(一年)
- 医学史 坪内先生
- 医事法規 坪内先生(二年)
- 指圧実技 門間先生
- あんま、マッサージ実技 吉田理平先生
- 吉田(勝)先生



(十四期生) 伊原芳雄



病みて感ずるの日々

異常気象が大変に暖かい今年の冬である。腹部の手術をした私には有難い、天与の恵みと感謝して毎日を励んで居ります。お蔭で健康五原則通り、身、心、仕事と共に順調です。思へば昨年は、生死すらおぼつか

なく、或は再起不能とさえ予想されたのでありますが、幸に復帰出来ました。而も其の間多くの時間を自習と自戒する事が、出来、これからの人生への眼を開かされた事を本当に嬉しく、喜んで居ります、と申しますのは、恩師浪越先生が米国の大学から哲学博士号を載いた時、指圧と哲学との関係を浅学な私はすぐ理解出来なかつたのであります、が入院中学習致しました。

「人生の根本問題を理性的に探求する学問が哲学」であり、又

「ギリシャ語の愛、智が語源である」と知った時、浪越先生は其の哲理の具現者である故の名誉称号であると理解したのであります、そうだ、私達はこの先生の名誉を心に常に母心の真実の愛と、苦悩に痛む者を救い得る真の智慧とを兼ね備えた者でなければならぬ、指圧と哲学の真随を実践し、体現する者こそ、世人の信頼を受ける事が出来るであろう事への眼を開かされたのであります。

其の時の一瞬は言い様のない、生への意欲と、窓外の新緑の青葉の美に感動した事は、今も忘れる事はありません。

一月も終りに近い或る日、ニュースは四月上旬の気温だと報じ、銀座の空を背景に、街路樹の青葉を鮮明にTVが映し出した其の時ふと胸中をよぎったものは、指圧道精進へのあの日の感動に似た思いでありました、そしてこの思いを日に新に、更に心燃しつ、命の限り頑張り抜こう決心をした次第であります。思へば再起して今日まで誠に平穏に参りました。病みて知る生きる喜びの今日も、日々是好日、日々是常楽の境である。

◎同窓会総会案内は十三頁をご覧ください



(十七期生)

伊藤 衛



冬のまつりと春

暖冬の続いていた秋田県内も、旧正月に入りようやく冬本番を思わせる寒波が襲来した。朝の最低気温が氷点下五〜八度、日中の最高気温も氷点下といういわゆる真冬の日が何日も続き、大きな冷凍庫の中に県内全体がスッポリ入ってしまったような状態である。私が東京にいた頃「雪が降りだすと割に暖かいもんだよ」などと、雪国の本当の寒さを知らない友人たちが言っていたことを思い出すが、そんなことはない。いやそういう日もないではないが、それは極めて適切な表現とはいえない。秋田の雪は上から降ることはあまりない。冷く強い風にあおられて吹き上げる雪、目の前が真暗ならぬ真白になり一寸先も見えなくなる。つまり地吹雪というやつで、雪が上からではなく下から降るのである。従って雪が降

りだすと暖かくなるどころではなく、むしろ寒さが増すという次第である。

さてこんな厳寒期に県内では、横手のかまくら、湯沢の犬っこまつり、六郷の竹打ち、角館の火振りかまくら、大館のあめっこ市、刈野の大綱引き等々、多彩な小正月行事が白一色の雪中に展開されている。

雪あかりにほっかりとかびあがるそのすがたに子どもたちを、また訪れた大勢の人々をメルヘンの世界へと誘う横手のかまくら(二月十五・六日)はあまりにも有名であるが、もうひとつ「みちのく五大雪まつり」の中に入っている。男鹿なまはげ柴灯(せど)まつりをわすれることはできない。昭和五十三年に国の重要無形民族文化財に指定され、一躍全国にその名をとどろかして、現在では横手のかまくらに匹敵する冬の民族行事にのし上った。

男鹿のなまはげは、もう千年も前から継承されてきたと伝えられる奇習で、本番は大みそかの晩のだが、観光客のために昭和三十九年から男鹿市北浦の真山神社を舞台に、毎年二月十三日から十五日までの三日間行われるようになった。なまはげの意味は文字どおり「生身をはぐ」で、怠けて暖ばかりとつていると皮膚にできる火形を鬼がはぎとるぞ、という怠慢の戒め、勤労の勤めらしいようである。

ともあれ、これら厳寒期における各種の小正月民族行事は、長く暗く厳しい冬を健康で明かるく乗り切ろうとする生活感の現われのように思えてならない。そして来たるべく春への期待と農作物の豊作への大いなる期待とがこめられているようである。

ところで、これら小正月行事も終り一息つく頃には、雪どけの進む沢づたいにばっ

きや(ふきのとう)秋田県花)が芽をだし、まんざくやこぶしのつぼみがふくらみ遅い春の訪れを告げる。

雪国の春はいい。地上におけるすべてのものが深い眠りからさめ、命を取り戻したかのように一斉に躍動をはじめ。それはまさしく自然が織り成す「生」への壮大なドラマである。冬が厳しければ厳しいほど、長ければ長いほどそのドラマは一層引き立つ。私はそんな春がたまらなく好きである。「おぎってたんせ、秋田へ」(おいで下さい秋田へ)

卒業後秋田市内で開業、妻と子供二人に恵まれ人様に感謝されながら地道に指圧の道を歩んでいます。

同期会便り

◆第六期会(二十周年記念大会)

桜ほころぶ三月二十六日、母校を会場として盛大に開催、参会総勢三十八人。総務は植松敬淑委員で石垣委員の司会で進行、開会の辞佐藤委員、一同を代表して藏本重春会長は、浪越校長はじめ恩師十人の方に感謝状と記念品を差し上げたあと、学友の便りを披露してあいさつ、次で会の功労者として植松、五味お二人に感謝状を贈り、卒業後誕生の鈴木ふみ子さんの娘さんにも記念品を差し上げ万場の拍手があつた。

浪越校長よりは御あいさつのと「この道に永年の功績に特別表彰状が一人／＼に手渡された。代表して答辞は柳沢委員、来賓の山内同窓会長や諸先生の祝辞と思ひ出話が交々あつて、拍手が相次いだ。閉会の辞は五味委員、長老の山口さんの乾杯で二

次会に入る。互いに昔を語り今の話の花が咲いた。ビールが踊り、水割りが三味線をひいた。佐藤、牧田両師範の詩吟も剣舞も見ごと。橋本師匠が舞台せましと踊る頃には、校長さんもみなその輪に加わっていやが上にも楽しさが増した。小師さんオハコの兵隊行進もついに出了。「六期健在と互いの幸わせを希いつ、」閉会は五時、記念飛行の塔乗は浪越校長と山口、斉藤の二三人に決まり皆さんから祝福を受けた。植松記

◆第十一期(六九鳥会)

お変わりありませんか。昭和四十四年三月二十一日雨の日、目黒雅叙園のひなびた長廊下と大きな壁画、茂田井さんの司会で一分間の黙とうの長かったこと、須田さんの歯切れのよい答詞、あれから十四年すぎましたね。でもその十四年の間たったの一度も顔をみず便りもなく、電話の声すらきかず——そんな仲間が何と多いことでしょう。昔のなつかしい思い出だけを残して無情な年月(としつき)は流れていきます。すでに数名の同志が悲しい旅立ちをなさいました。

皆様、今年は九月上旬頃に会食を予定しています。色々のこと語り合おうではありませんか。出席した方はみんな「やっぱり思い切つて出てきてよかつたね」とおっしゃいます。みんなの顔をみてなつかしさが倍加し「次回もきつとよ」と固く握りしめて別れてゆかれるのです。昨秋は伊豆湯ヶ島に一泊しました。出席は二十名程でしたが、それは本当に楽しいものでした。具体的に決まりましたら各自に連絡しますからそのときはどうぞ、**欠席**としないで**出席**と一人残らず御返信下さるよう待

っています。

それから御自分のこと、近くの同期の方のこと、親しい同期の方のこと、消息等変わったことがあります。お知らせ下さい。御連絡は日本指圧協会事務局(電話〇三―八三六―五九〇八番)工藤てる様です。親愛なる同期の御自愛を祈りつつ

岡田辰次郎記

◆第十五期会(イコーカイ)

十年ひと昔というが、早いもので、指圧学校を卒業して、この三月で十年の歳月が流れた。

この十年間を振り返って、各々の胸に去来するものは違ふと思うが、只ひとつ、共通していることは、二年間、共に学び、国家試験を無事合格し、希望にもえて指圧学校を卒業したことである。

しかし歳月というものは、往々にして人の心を変えてしまう。卒業時のあの感激、この昔に忘れてしまった人もいます。

私は、同期生にはなるべく年賀状を出すようにしている。そしてまた、同期生からいただく年賀状で、驚くことがある。

とんでもない世界で、活躍している人がいるのである。どんな世界でもよい。同期生が元気で活躍しているということは、なんと嬉しいのである。

その反面、全く音信不通の人がいることは、誠に残念至極である。

今年こそ、卒業十周年のイコー会を開催したい。

相澤金雄 記

◆第十七期会

牛にひかれて善光寺参りという諺がある。

解釈の仕方はいろいろあると思うが、昨年の秋、十七期の同期会に出席した後で、私はこの言葉を思い出した。ここ数年横浜の片隅で仕事に専念し、東京へはめつたに行かなくなっていた。同期会があるというので、久しぶりに仕事を休みにして、大塚の寿司常会館へ出向いた。電車を乗り間違えてちよつと遅刻したので、会は既に始まっていた。出席者は招待の先生方四名を含めて四十名、顔ぶれはほとんどいつものメンバーで、その点では結婚式で親戚一同が集まった時のような親しみやすさがあつて良かった。隣にすわつた方が若い独身の女性であつたので尚良かった。思いがけない職に転向した人もあつたし、熟年になってますます盛んな人もあつた。ある方には技術向上の秘訣を教えてもらったし、いろいろないい刺激に満たされて帰ってきた。ところで善光寺参りの話だが、この場合、牛は幹事の方々、善光寺は十七期会、そして御利益は前述のような楽しいひとときと、マナーリズムへのいい刺激である。また当日会場で、今後の開催をいかにしたら良いかというアンケートがとられたから、そのうちまたいい企画があるだろう。そこで最後に諺をもう一つ、特に今回出席しなかつた方々へ。馬には乗ってみよ、同期会には出席してみよ。

斎藤良知記

同期会便りご利用について

この覧は同期生の交流の場であり、同期会、クラス会等親睦の集りの記事をお寄せ下さい。同窓への交信の場を有効にご利用頂けるよう、各クラス委員、世話役の方、同期の役員の方々にお願いします。

編集後記

本号では今年度同窓会のビックイ

ベント「講演と懇親の集い」を特集しました。浪越徳治郎先生の側面

を輝らしたハイライトは幼少より終始一貫親孝行の心でした。眞の指

圧師としての心構えは正しい思想を持たねばならぬことを先人の名句と

ともに教え下さり素晴らしい名講演で清々しい気分になる一時でした。

田村鉦二先生のスライドを駆使しての講演は大変興味深く、最新のご研究を披瀝して戴きました。残念な

事には写真を多く掲載できなかったこととす。YOKOGAOは

指圧学校往年の名物先生にご登場願いました。大変懐かし御健在を嬉

しく思います。今回紙面の都合で「海外通信」は休みとしました。ま

た投稿を戴いたなかで事情により掲載できなかった方には紙上をお借り

しまして茲にお詫びとお礼申し上げます。なお講演速記録は指圧学校事

務局佐藤八郎先生にお願いしました。感謝とお礼申し上げ今後共、みなさ

まのご協力と御指導の程お願い致します。三月十三日国家試験の難関

を乗り越えて二十五期生が全国に巣立つて行った。力強く声援を送ろう

！今東京は都知事戦、上野の山は桜吹雪……その吹雪の中に偶然同期

の桜と出合った。(K生)